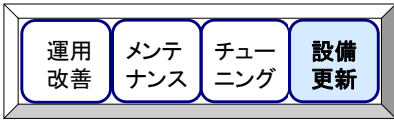


高効率空調設備への更新



- 最新式空調機は省エネ性が向上しております。また、既設エアコンは経年劣化により消費電力が増加していくことから更新することで節電になります。

試算例

COP(成績係数)が大きい最新式空調機へ更新すると...

■ 節電効果 : **節電効果 154万円/年** 【高圧電力S単価を適用】
節電電力 約 51.1kW
節電電力量 約 80,300kWh

■ 対策内容 : 高効率空調への更新

■ 計算式 : 節電電力(kW) = (定格消費電力(旧) × 消費電力増加率(%))
 - 定格消費電力(新) × 最大負荷率(%)
 節電電力量(kWh) = (定格消費電力(旧) × 消費電力増加率(%))
 - 定格消費電力(新) × 平均負荷率(%)
 × 対象時間 × 対象日数

(試算条件)

定格消費電力(旧):122kW (パッケージエアコン 8HP × 1台, 18HP × 7台) (仮定)

定格消費電力(新):110kW (同上) (仮定)

最大負荷率:70% (仮定)

平均負荷率:40% (仮定)

消費電力増加率:150% (毎年4%の電気使用量増で10年経過後:右図参照)

対象時間:11時間/日(9:00~20:00)

対象日数:250日/年

[実際の試算では、ご使用機器の仕様や対象時間及び日数などを考慮した数値をお使い下さい]

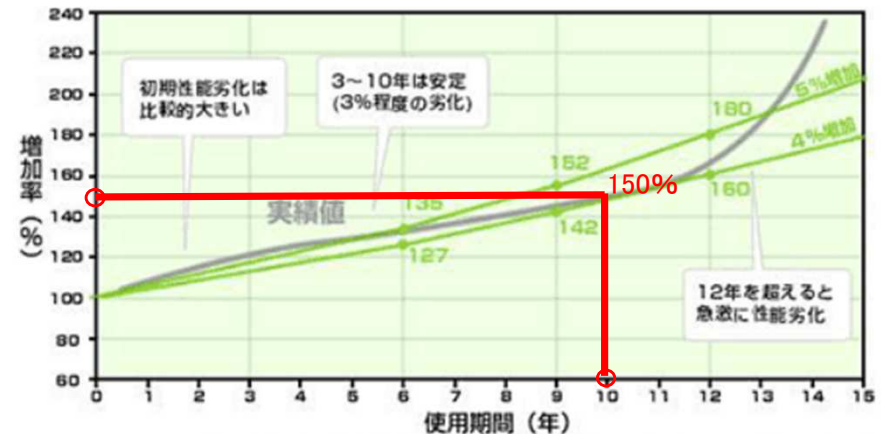
ポイント

- 定期的な室外機のフィン洗浄を併せることで、より節電になります。
- 使用頻度などを考慮し、ダウンサイジング(※)の検討も有効です。

※オーバースペックになっている機器の見直しを行うこと。

参考

エアコンは、毎年4~5%程度の割合で電気使用量が増えていきます。また12年を超えると急激に性能が低下し使用電力量が大きく増える可能性があるため、経過年数に応じて更新を検討しましょう。



※冷房能力2.2kwの家庭用エアコン41台による実測値から算出 (2009年実施)

出典:(株)エコテック エネデュースHPより

【寒冷地向けエアコンについて】

- ・ 寒冷地では、低外気温でも高出力をキープできる寒冷地用エアコンをお選びいただくのがおすすめです。
- ・ 寒冷地エアコンは冬の冷え込みが厳しい地域でも快適に過ごせるように、強力な暖房機能と高いエネルギー効率を備えたエアコンです。
- ・ 各メーカーから、低外気温下でも運転可能な冷暖房機や、暖房専用機、また冷温水で快適温度にする空冷ヒートポンプモジュールチラーなど、様々な寒冷地用空調が発売されています。

注)本内容はお客様の運用状況等によって異なる場合がございます